

関係人口がもたらすもの

なぜ関係人口
づくりに
取り組むの？

- 関係人口は、移住には至らずとも、“地域内で様々な役割を担うことができる存在”です。
- 関係人口と地域との双方がかかわり合うことで、お互いが取り組む意義や目的を達成するとともに、その効果が次なるかかわりの原動力となっていきます。

人口が減少しても、地域住民や関係人口など多様な人材が力を発揮し、影響し合いながら地域の活力も高まっていくことが期待できます。

○ 地域側の観点

① 魅力の再発見、地域の意識変容

例 → 市民コミュニティ財団が人と人をつなぐ活動の一環として体験型のプログラムを生み出す過程で自分たちの地域の魅力に気づき、活動に活かすなど、ポジティブな変容に繋げている。



② 新たな地域づくりの担い手確保

例 → 都市部企業に勤める者がマーケティング経験を活かし、副業として自治体のふるさと納税事業を伴走支援している。



③ 地域に不足するスキル等の補完

例 → 都市部のクリエイターが手仕事を得意とする地域住民らとイベントや作品を一緒につくることを通じ、地域で複数のビジネスが生まれた。



○ 関係人口側の観点

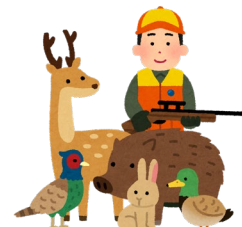
① 暮らしの選択肢の広がり

例 → 援農活動等を通じて、自身の進路の選択として地方を意識した仕事や生活を実現する人が増えている。



② 自己実現の機会等の拡大

例 → 狩猟に興味のあった関係人口が、地域の鳥獣被害対策活動に携わることを通じて、地域貢献と同時に自己の成長へと繋げている。



③ スキル等を活かした活躍

例 → 自身の経理経験を活かし、地域団体で不足していた会計業務を担うようになり、地域貢献しながら交流を深めている。

